The Correspondence of
Noboribetsu City Nature Center

登別市ネイチャーセンター ふおれすと鉱山
ニュースレター

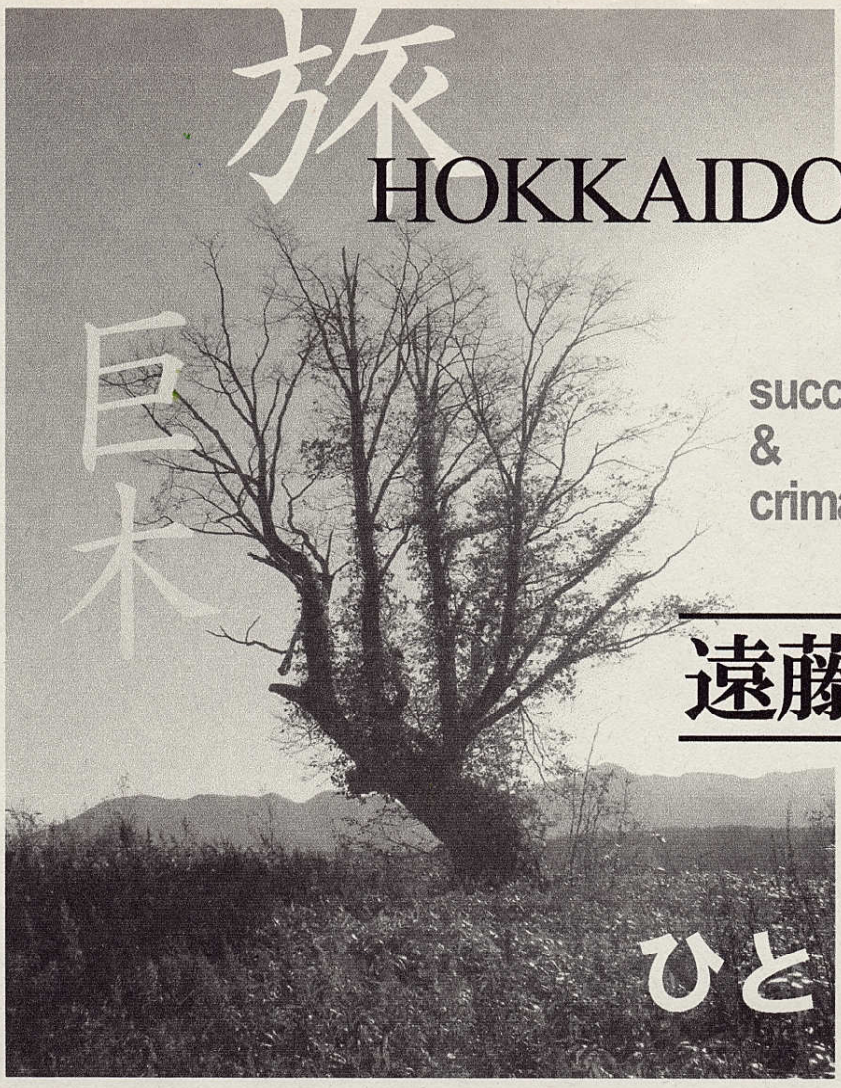
鉱山録

にほんてん
Illustrated by Hiyama T.

Contents

特集
遠藤 潤の世界……2
オープンから22ヶ月の活動報告……4
使える小ネタ集……5
リトル・ヴォイス ～リレーエッセイ～ ……7
お知らせ&わいるどれしぴ……8

Vol.8
Mar. 2004



遠藤 潤の世界

巨木のぬくもり。尾瀬の本物たち。

うちからちょっと登った山のところに、茶屋の桜と呼ばれる、天然記念物に指定された老木があった。そのごつごつしているこぶをよじ登ると、枝にもたれかかって空を見上げることができる絶好の秘密の隠れ場があった。今思い返してみると、そんなに高い木ではなかったと思う。が、高い空が近く、眼下にはいつも走り回っている畑や田んぼや野原を眺めることができた。その茶屋の桜は、幾星霜の歳月により幹の芯が空洞になり、木を支えるためそこにはコンクリートが流しこまれていた。子ども心にそのコンクリートが心に痛く違和感も感じたが、その木が好きだった。近所のばあちゃんに何度怒られても、その木に登って空を見た。冷たいコンクリートの感触に対しての桜の樹皮のごつごつとしたあたたかさが心地よかった。考えてみると、ちょっと長く暮らした土地には、決まってまた会いに行きたくなる樹木がある。巨樹が持つ神秘的なパワーが、私を植物の世界にいざなってくれた原動力のひとつであったと思う。

高校時代、バイトで稼いだお金で、キャンプ道具を一揃え集めた。寝袋、テント、食料などをザックにつめ、尾瀬に向かった。背負ったザックの中に、生活道具が一式揃っている。今日からこのたった一個のザックの中身で、旅をしていくんだ。そんな高揚感が私を夢中にさせた。降る雨、降る蝉時雨の中を歩き、湿原に咲いている花、緑まばゆい木々の中に生を感じ、人生を考えた。そして、そこに住む生き物たちがつながっていること、森、川、湿原がつながっていることなどの、本から得た知識が、本物を見、旅することで自分の中にどすんと落ちてきた。そして、それを気づかせてくれた尾瀬は特別な場所になった。

旅で学んだこと。つながりに見出したこと。

私は、もうひとつなぜか惹かれる特別な場所があった。北の大地である。高校を卒業し、大学受験のため、その北の大地を踏むことになった。冬の北海道はとてつもなく広く、凍てつく寒さの中に、凛とした風景があり、人々との温かい触れあいがあった。そうして、私にとって大学進学より旅をすることが、自分を見つめられる手段となった。こうして、私は旅人になった。北海道の旅人向けの民宿には、ヘルパーという仕事がある。住み込みで宿業の手伝いを

する仕事だ。私は、北の大地のなじみの宿でヘルパーになり、旅人から旅人を迎える側へとなった。さまざまな人が訪ねてきては、去っていく。暮らしてみると、見えてくるものは、もちろんいいところばかりではない。それでも、そこで暮らしているからこそ、旅人ばかりではなく住人たちとの交流があり、そこの自然ともちゃんと向き合うようになる。そして、気づかされた。つながりは、自然の中にも、人の中にも、もちろん自然と人の中にもある。そして、それは、なにも特別な場所ばかりではない、身近な場所にもあるのだ。こうして、自分のライフスタイルについて考え、もう一度勉強したくなり、大学の門をたたいたのだ。

鉱山町。
わたしの思い。

そして、私はふぉれすと鉱山と出会った。人と出会い、自然と出会い、ここにきた。鉱山町が私の居場所となり、この日常が、また、私に刺激を与えた。

ここに暮らし、鉱山町の自然と向き合うことで、季節が'ちゃんと'動いていることに気づくことができた。日々のちょっとした変化が続くことで、季節は確実に移りゆくことをあらためて体感した。そのおかげで、実家に帰ると、決まって裏山を散策し森の音に耳を傾けるようになった。生まれ育ったところでも、新しい発見が多々あり、うれしくなってしまう。

このような気づきを促す手伝いはできないだろうか。私は、訪ねてきた人が鉱山町の自然と向き合うことで、それを持ち帰って身近な自然にも気づくようなきっかけを伝えていきたいと思っている。気づくのは本人であって、その手伝いしかできないと思う。そのきっかけが、自然だけにとどまらず、人と人、人と地域など、いろんなにもつながるようになったら、素敵だなと思っている。

ひととひと。
ひととふぉれすと鉱山。

また、ふぉれすと鉱山には、子どもから大人まで様々な年代の人たちが訪ねてくる。自然遊びをしに来たり、癒しを求めて来たり、お話しに来たり、プログラムの手伝いに来たり。だから、それだけにとどまらず、ふぉれすと鉱山が様々な出会いの場となり、交流の場になってくれることを願っている。ふぉれすと鉱山スタッフだけでなく、訪ねてくる人同志から交流が生まれていくことを期待している。ふぉれすと鉱山は、この春で3年目を迎え、様々な人たちの交流が広がってきている。私もその交流の恩恵を受けているひとりだ。これからも、そんな場を作っていきたい。

様々な年代の人たちが集まって、それぞれの楽しさを見つけ出し、ふぉれすと鉱山を心地よい居場所に変えていってくれる。近々、そんな光景が見られることを、私は楽しみにしている。

text & photographs
遠藤 潤（えんどう　めぐみ）

大学・大学院時代に富士山で森林動態の研究をしていた経歴から自然環境調査を担当していたが、現在は旅人時代に多くの人々と関わった経験を活かしてボランティア活動や市民と行なう森づくりなど、利用者とふぉれすと鉱山をつなげる役割も担っている。

鉱山案内
小川邦夫的

春の鉱山近況

2月の冬まつりにこしらえた、グラウンドの巨大雪だるまもこの所の暖気で日に日にやせ細り原型をとどめなくなってきました。また先日は鉱山町にも季節外れの黄砂が降り注ぎ、真っ白だった雪原が薄茶色になりました。

3月に入ってからの気候は、まさに三寒四温、雪解けが進み、80センチあった積雪が今は半分になり、鉱山町にも春の足音が聞こえはじめています。

春といえば、川湯エコミュージアムのOさんの春は、昨年暮れに来ました。

彼女は何度か、ふぉれすと鉱山に手伝いに来てくれ、とても明るく気さくな娘なので、いい人がいればと思っていましたが・・（老婆心です）。

風の便りによると、地元の写真家と電撃入籍・・・。ふぉれすと鉱山のスタッフは皆、騒然となりました。お幸せになってください。今春、川湯の雪解けも早そうです。

ついでですが、ふぉれすと鉱山のEさんの春は、まだ、まだ来そうにありません。（季節の春は巡り来るけどナア・・・）

オープンから22ヶ月の活動報告

気づいてみればふぉれすと鉱山がオープンしてからもうすぐ2年。すき間だらけでみっともなかったこの施設もだんだん落ち着いて風格が出てきました。たくさんあったすき間が利用者のみなさんの協力もあって、少なくなってきたように思います。さて、来年はどんな風になっていくのでしょうか。もっともっと大きいすき間を用意して来年を迎えようとたくらんでいる年度末なのでした。

平成15年12月	
13～14	NPO法人ねおすイエティくらぶ

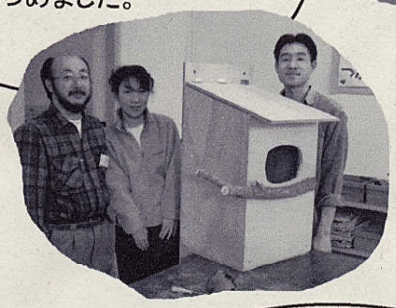
平成16年1月	
9～12	冬休みスペシャルウィーク
18	モモンガくらぶ主催「歩くスキーハイキング」
20	鉱山の森づくり懇話会
24～25	主催事業「鉱山の森とフクロウ」
27	幌別小3年生総合
28	幌別東1年生生活科
30	青葉小3年生図工

2月	
1	主催事業「ふゆの森であそぼう」
2	婦人短期大学講演
4	登別小4年生理科
5	登別小2年生理科
7	ふぉれすと鉱山冬まつり
11	鉱山の森づくり懇話会
12	利用者懇談会
14～15	主催事業「雪中キャンプ高学年編」
17	若草小2年生生活科
18	登別小5年生総合
21	主催事業「雪の上であそびたおせ」
22	三市合同歩くスキー大会
24	利用者懇談会
28～29	主催事業「雪中キャンプ中学年編」

3月	
5	登別中学校総合
6～7	コミュニティネットワーク
9	鉱山の森づくり懇話会
13	モモンガくらぶ総会
18	利用者会議
25	様似町教育委員会
26～28	コミュニティネットワーク

クラフトや雪遊びなど、冬だから、冬こそできる遊びを楽しみました。最後の日のもちまきは大盛り上がりでした。

森の豊かさを象徴するフクロウ。鳥の専門家を招いてフクロウを通して鉱山の森をみつめました。



「どんなところをどんなふうにしたらいいいだろう。」実際に整備する森を歩きながらみんなで話し合いました。歩いてみると想像とだいぶ違うんだなあ。

「来年はどうしたらいい？」「もっとみんなで楽しむにはどんなことしたらいい？」額をつき合わせてじっくり話し合いました。来年は今年より面白くなります。

ふぉれすと鉱山のプログラムは、小ネタ（アクティビティ）の連なり。
ここでは使えるアクティビティを特別にご紹介。

コーザン流雪あそび

ニセコやルスツほどではないですが、ここ鉱山町にもけっこう雪が積もります。立派なスキーゲレンデやリフトはないけれど、ちょっとした斜面や林を使えば、とってもワイルドな雪遊びがたくさんできます。そんな鉱山町で今年行なった雪遊びをほんの少しご紹介します。

やっぱりそりすべり!

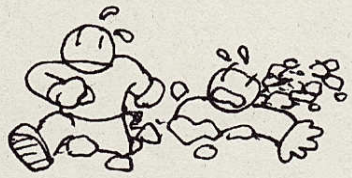
色々やってはみるものの、ダントツに人気があるのがソリすべりです。やはりスピードが違います。ソリの前についている紐はあえて使わないで横の手すりを掴み、仰向けに寝転がるようにすべると安定します。ジャンプ台とかでジャンプすると面白いのですが、たまにソリが真っ二つに割れるので要注意。

タイヤチューブすべり

小さな子でも安全にすべることが出来るので安心してお薦めできます。一番面白いのは大人数でつながってすべること。何だか変わった動物が走っているみたいです。つながり方も工夫次第で色々楽しめます。

雪遊びのかっこう

フカ雪を歩こう



大雪が降った次の日は、スパッツをしっかり装着してどんどん深雪の中に入ってゆきます。ただそれだけなのですが、子どもたちはなぜか大喜び。ズボズボと沈んでしまう大人たちを残して子どもたちは泳ぐようにらくらく深雪の上を走って行きます。四つんばいになるのがコツのようです。

氷の上に立てるか？

かなり緊張する遊びです。冬の川に赴き、半分凍っている氷の上に恐る恐る足をのせてみます。すこ～しずつ体重をかけ、大丈夫だったらもう一歩…。想像するだけで冷や汗が出ますが、このスリルがたまりません。鉱山町の川を熟知しているスタッフが同行することで初めてできる遊びです。

雪遊びおすすめスポット

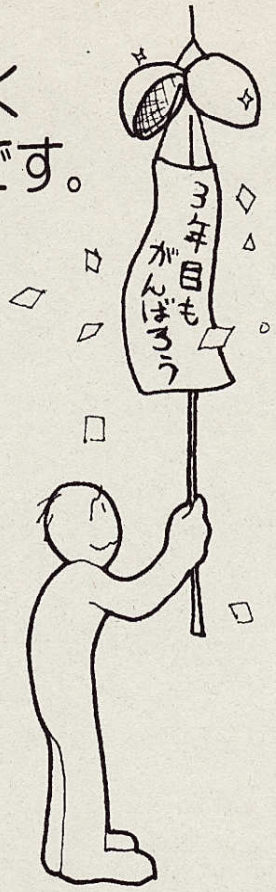
- **ふぉれすと鉱山の築山**…小さな子から大きな子まで、気軽にソリ遊びが楽しめます。
- **山神社の坂**…一押しのソリすべりポイントです。長く急な坂ですが、意外と安全に遊べます。
- **周辺の林**…夜、林の中で雪合戦をすると、大人もかなり本気になります。本当に忍者になった気分です。

この他に「もっと面白い遊びがあるぞ」という方、ぜひ教えてください。色々あるのでしょうが、準備に手間がかからず、ルールが簡単で理解しやすい、という遊びが人気があるようです。

（上田　Program D）

ほんねのスポット

③まもなく2年目です。



今年度の利用者は16000人近くになりそうです。利用数が前年を少し上回りホットしています。何故って、利用者数がネイチャーセンターの活動評価として、一般に重視されているから前年より少ないと何かと大変なのです。

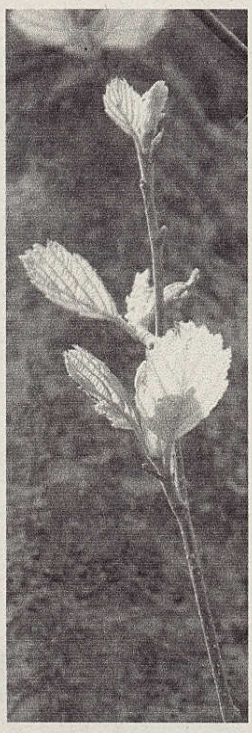
無論、利用者は多いに越したことはないと思うけど、本当は活動内容の方が重要だと思うのですが、これを数値で表すのは、なかなかむずかしいから・・。

そういう訳で、15年度は数多くのお客さんにきてもらおうとスペシャルウィークと名打って、GWと夏休み、冬休みに長期イベントを行ないました。出店方式のこのイベントやる方も期間が長いので結構大変でしたが、モモンガくらぶの皆さんの絶大な協力があり、何とか成功したと思っております。今年もやりますので是非遊びに来てください。

遊びにきた方に楽しかったまた来ようと言われる施設にしたい、そういう思いで働いています。(O)

春だからこその紅葉

えんどうめぐみの森のひみつシリーズ⑧



ふぉれすと鉱山のある鉱山町の森には、落葉樹が多くみられます。落葉樹は、晩秋に葉を落とし、冬の間は眠っているようにみえますが、実は次の春に向けて葉や花をゆっくり育てています。その葉や花を大切に包んでいるのが冬芽です。

雪が解け、暖かい日が続くと、その芽がほころぶ時がやってきます。この芽吹きの季節は、春紅葉（はるもみじ）と呼ばれます。春なのに、山々が紅葉したように赤や黄色などの繊細な色合いで飾られます。それは、樹木の種類によっても色彩が変わり、過ぎゆく時間でも彩りを変えていきます。どうして、出たばかりの芽は、さまざまな色に色づくのでしょう。出たばかりの葉にとっては、春の日差しはキツイようで、このような色素を生成することによって、有害な紫外線を緩和する働きがあるという説もあります。

芽吹きと一口に言っても、その芽には、花だけが出るタイプ、葉だけが出るタイプ、花と葉が出るタイプがあります。樹木の種類によって、どのタイプの芽を持つかが決まっていたり、どちらが先にほころぶかが決まっています。例えば、鉱山町の野山でみられるエゾヤマザクラは、葉を持っている芽と花を持っている芽が同時に開きます。一方、公園や学校などに植えられている桜、ソメイヨシノは、花を持っている芽が先に開きます。

冬をじっくり過ごし春を待ってみられる、葉と花の競演、春紅葉。ここ鉱山町では、４月終わりから５月中旬にかけて見ごろです。

リレーエッセイ

Roots and Shoots

リトル・ヴォイス

思い出の地

亀山 敬子

ふぉれすと鉱山の活動をいつもサポートしてくれる高校生。キャンプなどでは誰よりも子どもと近い距離で接してくれていた。この春から神奈川県の大学に進学するため、登別を離れてしまうが、大学では環境科学を学ぶことに意気込みを見せている。モモンガくらぶ会員。

「ボランティア」って言葉は本当は嫌いなんです。自分は良いことをやっているんですよって主張しているみたいで。だから私は周りの人に「ふぉれすと鉱山に遊びに行ってくるわ」って言っています。この遊びは楽しい事ばかりじゃなくて厳しい事や悲しい事、責任がある事もたくさんあります。それらと向き合って自分を見つめることがとても楽しかったです。高校生だった私は丁度、大人と子供の中間だったので両方の刺激を受けました。早く大人になりたいと思うこともありましたし、こんな大人にはなりたくないと思う時もありました。私もちょっと前まではここに来るちびっこ達と同じだったのに、何気ないことに感動する感覚を忘れてしまっている自分に気づくこともありました。世代を超えた広い世界の中、自分はどんな人間になりたいかを探しているから、私にとってふぉれすと鉱山は成長の場です。これからも多くの人の成長の場になってほしいと思います。大人も子供も成長できますからね。

あと、ふぉれすと鉱山に望むことは自然保護です。子供達には自然を利用するだけって考えを持ってほしくないのです。私達は森に入るだけで生き物に害を与えている。でも自然を知らずに生きるのはもっと良くない気もします。だからここが、環境への配慮が自然と身につく場になってほしいと思います。お皿を洗っている子供に「この洗剤、うちのと違う。ヤシの実洗剤って何？」って聞かれたら「それはね、川を汚さない洗剤なんだよ」って答えられたら素敵ですよね。

最後に詩を書きます。私の気持ちが分かってくれたら嬉しいなあ。

思い出の地

亀山 敬子

私の故郷 登別。そしてふぉれすと鉱山。
春は命の目覚め、
夏はみずみずしい緑、
秋は燃える紅葉、
冬は深い色の雪。
動物も植物も力の限り生きている。
そう、
ここには心が満たされる自然が溢れている。

そして、一緒にいて楽しい仲間がいる。
暑くても、寒くても、
転んでも笑いあえる仲間がいる。
自然のもとに私達は集まった。
自然のために集まった。
でも自然以上のものを見つけた。
ただの緑も 遊びも 一人じゃ楽しくない。
仲間がいるから十倍楽しい。
仲間がいるから百倍楽しめる。

私はここに出会えてよかった。
みんなに出会えてよかった。
これからもここが
たくさんの人の思い出の地になりますように。
自然と仲間との思い出が
人の心に残ってくれたら嬉しいのです。
私は思い出を作れるこの場所を
ずっと ずっと 残していきたい。

EVENT INFORMATION

ふぉれすと鉱山の事業

イベントチェック

5/1（土）～5（水）	GWといえば恒例。春の遊び満載！ スペシャルウイーク
5/16（日）	調査企画「鉱山町フラワーソン」
5/22（土）,23（日）	指導者養成講座① 「野生動物を学ぶ・伝える」 自然環境調査の成果やプロジェクトワイルドなどを使って動物の生活を伝える術を学びます。
6/19（土）,20（日）	指導者養成講座② 「昆虫から学ぶ」 昆虫の調査の方法からプログラムへの応用まで、昆虫の専門家を招いてその技術を学びます。

恒例!! ふぉれすと鉱山の

GWスペシャルウイーク

もうすぐGWですよ！GWといえばふぉれすと鉱山のスペシャルウイークですよ。今回もおもしろイベント目白押しです。

イベント情報（予定）

- サケの稚魚に餌やり体験
- 野草料理教室
- 草べこもち作り
- サンショウウオ教室　など

イベントのお問い合わせ・お申込みは「ふぉれすと鉱山」
TEL.0143-85-2569　　FAX.0143-81-5808
まで、お気軽にどうぞ。

…身近な野の草花を食卓に…

わいるどれしぴ

オオイタドリを食す

春といえば山菜の季節。知る人ぞ知るオオイタドリを食材にします。（イタドリでもO.K.）ほのかな酸味をご賞味あれ。シュウ酸が含まれるので食べすぎ注意

④ 油いため編

フライパンに油を熱し、イタドリとちくわなどをいため、酒、しょうゆで味つけし、ゴマをふりかけ、できあがり。

③ イタドリサラダ編

イタドリをざくざく切り、トマトを添え、マヨネーズ、コショウで味つけ。

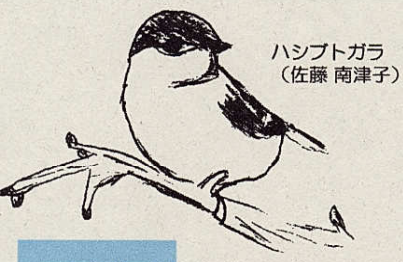
② 皮をむいて、塩で軽くもみ水にさらしてあくぬきをする。

水にさらしすぎると風味がおちてしまうので注意！

① オオイタドリの若芽・若茎を採る。（茎が太くなったら、先端でもよい。）

【用意するもの】

オオイタドリの若芽・若茎、塩
- サラダ用 ⇩ トマト、マヨネーズ、コショウ
- 油いため用 ⇩ ちくわ、酒、しょうゆ、ゴマ



ハシブトガラ
（佐藤 南津子）

ふぉれすと鉱山ご利用のご案内

開館・9:00～17:30　　入館料・無料
休館日・毎週月曜日（月曜日が祝日の場合はその翌日が休館となります）
・工作室・図書室はご自由に使っていただけます。そのほかに双眼鏡、マウンテンバイク、調理台などをご利用いただけます。

EDITOR'S LOUNGE

雪が降らない。と先号に書いた。そのせいか2月は毎週雨だった。僕は休日には雨を眺めながら部屋の中で悶々としていた。3月になったらまた雪が降るだろう。そんな期待をしながら。しかし、足早に訪れた春はそんな淡い期待をきれいに解かしてしまった。僕はまた悶々と雪のない季節をすごすのだ。春よ来るな。

おくづけ

登別市ネイチャーセンター通信誌「鉱山録」 Vol.8
発行：2004年3月
発行所：〒059-0021　北海道登別市鉱山町8-3
電話番号：0143-85-2569　FAX: 0143-81-5808
E-Mail：kouzan@pluto.plala.or.jp
URL：www.city.noboribetsu.hokkaido.jp/forest/index.htm